

農地パトロールの運用見直し 8月実施から「適切な時期」に

農林水産省はこのほど、農地法に基づいて各市町村農業委員会等が毎年実施する「農地利用状況調査」の実施時期・方法について、一部弾力的な運用を可能とする通知を发出了。同調査については、これまで農林水産省通知「農業

委員会の運用について」により、毎年8月頃に実施することが明記されていたが、近年の猛暑を踏まえ、3月31日に同通知を改正し、「遊休農地の判定やその後の措置に支障が生じない適切な時期」に調査を実施できるととした。

また、目視による現地確認を行って遊休農地に該当するか否かを判定する方法についても、特に調査対象地域が広域であったり、通行が困難である場合などは業務負担が大きいとの意見

が寄せられていた。このことから、委員が日ごろの現地確認で遊休農地の適否を確認している場合にこれをもって利用状況調査を実施したこととする運用や、地域の実情に応じて衛星画像や航空写真等の活用も想定されることも示されている。

各市町村農業委員会等においては、熱中症等の防止に十分配慮しつつ、農地パトロールの実施時期・方法について検討されたい。(沼田)

「河内一寸空豆」が 伝統野菜に

大阪府は5月13日、「河内一寸空豆」を26番目の「なにわの伝統野菜」に認証した。

なにわの伝統野菜は、①概ね100年以上前から大阪府内で栽培され、②大阪独自の品目・品種・栽培方法又は府内特定地域の気候風土に育まれたもので、栽培に供する苗、種子等の確保が可能で、③現在も府内で生産されている野菜を認証するもの。



河内一寸空豆(大阪府環境農林水産部農政室提供)

ソラマメの中でも粒が大きく、甘みやコクがあり、ふっくらとした食感などが特徴。明治時代には南河内地域で栽培されていた伝統的な品種である。(沼田)

なにわ農業賞受賞者紹介96

地域振興や担い手育成に尽力

富田林市・乾 裕佳さん

令和3年度になにわ農業賞を受賞した乾裕佳さん(51)は、富田林市西板持で代々続く乾農園の4代目として、ナス、キュウリ、海老芋を中心に栽培している。

代を重ねる中で作付面積を広げ、現在は約3畝に及ぶ。規模拡大に伴い、雇用型の経営体制づくりや外国人材の活用にも取り組み、多様な人材が農園を支える体制を築いてきた。

16年前に帰郷し、乾農園の経営に携わるようになった裕佳さんは、西板持の海老芋の復興・継承に長年努めてきた父の勝秀

さんから技術を学んだ。

その時の経験を踏まえ、従来の「見て学ぶ」方式にとどまらず、農園全体で栽培技術や作業手順を共有できる体制づくりを模索。作業のマニュアル化や役割分担、作業記録の徹底を進め、令和2年にはJGAP認証を取得した。安全性の確保にとどまらず、作業工程や労働体制を見直す契機となったという。

さらに「富田林の千両なす」は大阪府内の農産物で初めて「高めの血圧を低下させる」という機能性表示食品として販売され



「何でも相談し合える地域の農家仲間がいたからこそ、様々なことがやれてきた」と乾さん

ているほか、海老芋についても、令和5年に富田林市海老芋振興協議会の副会長として、関係者

らとともにGI(地理的表示)登録に関わり、産地ブランドの向上に力を注いできた。

また、富田林市の若手農業者らで構成する「富田林市の農業を創造する会」では会長として運営の中核を担う。会員農家が栽培指導を行う「富田林市きらめき農業塾」についても、塾生を将来の地域農業を支える大切な担い手として捉え、多忙な農作業の合間にも積極的

に現場に足を運び、交流を惜しまない。さらには、高校生等の海外研修に向けた渡航前研修の受入れや、地元中学生に地域農業・農産物を知ってもらうことを目的とした農園見学にも協力。若いうちに農に触れる機会は重要なものと考え、取り組んでいる。

令和7年には、農山漁村女性活躍表彰の女性優良ビジネス部門で農林水産大臣賞を受賞。優れた農業経営の実践に加え、産地ブランドの向上や地域の担い手育成などに尽力してきたことが高く評価された。

乾さんは、「楽しく農業をすることは大切だが『好き』だけで続けるのは難しい。次の世代が農業を業として続けられる環境を整えていきたい」と話す。(沼田)